神戸新聞 2026年08月02日 日曜日 面名 朝一 １３ 1ページ

正平調

神戸の精神科医だった中井久夫さんに手紙が届いた。阪神・淡路大震災の惨状を知ったオランダの医師からだった。「友よ、健在か。日本人の何という整然さ。日本人はいつもこうだ」。そう書かれていたと中井さんの回想にある◆列を乱さず、ただ静かに救援物資や炊き出しの順を待つ被災者の姿は、何度も海外で称賛されてきた。それはいい。が、そのたび違った思いもよぎる。忍耐という「美徳」が過度な我慢をしいてはいないか、と◆小学3年生という。熊本の被災地とつながったテレビ中継で、避難生活の不便を問われた男の子が「我慢しないと。死ぬよりかはマシだから」、そう話したのを聴いた◆胸がつまった。多くの命が失われたことを知って、充満する悲しみや嘆きを感じとって、自分は恵まれている、弱音ははけないと思ったか。あるいは大人に心配をかけまいと考えたか。けなげな心に、涙がでる◆楽しいはずの夏休みだったのにな…。天を仰いで唇をかみ、いまも懸命に耐えている子たちがいる。熊本日日新聞がある母親の声を伝えていた。「水がいつまで持つか分からない。子どもをお風呂に入れたい」◆熊本出身、石牟礼道子さんの句を思い出す。〈祈るべき天とおもえど天の病む〉。地震から5日になる。　2026・8・2

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。

時間があるひとは問題を解くだけでなく、裏面の100字シートに
今の自分の思いをまとめてみまよう

左の記事を読んで、次の問いに答えましょう。

1　本文にある次の語句の意味を調べて書きましょう。

①　しいる（強いる）

②　胸がつまる

2　石牟礼道子さんの俳句について。（　）に入る語を考えて書きましょう。

・この俳句は、熊本出身の石牟礼道子さんが（　　　　　　）病の犠牲者を悼んで、強い思いで発表した句である。

3　石牟礼さんの俳句に込められた思いを説明する次の文の□に、本文中の語句を抜き出して書きましょう。

・救いを求めて仰ぐ□さえも、すがることことができない（病んでいる）という、絶望や深い□□□□□□を詠んでいる。

NIEワークシートのこたえ（2026年８月３日公開）

◆ワークシート「楽しいはずの夏休みだったのに＜正平調＞（国語）」
　2026.8.2付　朝刊　１面　解答

１　①　おしつける、無理やりさせる　②　つらさや悲しみのために胸が苦しくなる、言葉がでなくなる
２　水俣
３　天　　悲しみや嘆き

すてっぷあっぷ

★わたしからのひとこと！（記事についての感想や意見を１行で書いてみましょう。）

★１００字シート（□にチェック）　□記事の要約　□記事に対する感想・意見